

令和6年度 美里町 全国学力・学習状況調査

【教科に関する調査結果から】

	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学
全国平均	67.7 %	63.4 %	58.1 %	52.5 %
埼玉県平均	69 %	64 %	59 %	53 %
本町平均	65 %	63 %	60 %	52 %

○よい傾向のもの ▲改善の必要があるもの⇒改善案

	小学校	中学校
国語	<p>○話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと</p> <p>○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること</p> <p>▲目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること ⇒思考ツールを活用し、分類や関係付けを行うとともに、自分の考えを表現する学習の際、まとめる時間を十分に確保する。</p>	<p>○文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること</p> <p>○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること</p> <p>▲必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること ⇒一文ではなく段落等の大きなまとまりの内容を捉えられるよう、物語文や説明文で要約の作業を行う。</p>
算数 数学	<p>○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること</p> <p>○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること</p> <p>▲「540割る0.6」のような、序数が少数である場合の除法の計算をすること ⇒朝学習の時間を用いて、基礎・基本となる計算について、繰り返し学習を行い、定着を図る。</p>	<p>○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較すること</p> <p>○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること</p> <p>▲「nを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す」のような、連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと ⇒定期的に復習をする必要があると考えられるため、授業等で適宜確認をする。</p>
児童生徒に対する 質問紙調査から	<p>○自己肯定感が高い。小・中学生ともに、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、肯定的に答えている児童・生徒が多い。また、中学生になると「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的に答える生徒が増加する。</p> <p>▲携帯・スマホによるSNS・動画の視聴時間が長い。 ⇒児童の実態を把握し、学級活動等でよりよい生活について考える機会を設ける。</p>	<p>▲地域・社会に貢献したいかどうかについて、肯定的に答える生徒がやや少なかった。 ⇒総合的な学習の時間に行う、地域・社会に係る学習を工夫する。</p>

町から

今後の改善に向けて、「美里町の教育スタイル」を活用し、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。そのために、教育委員会が訪問する「日常の授業参観」を実施して、授業者に効果的なフィードバックを行っていく。

美里町学力向上推進会議で児童・生徒の課題や実態把握を行うとともに、学力向上に係る取組を計画的に行う。また、取組に対する評価・修正を行いながら、来年度へとつなげていく。